

・東南アジアでの Dengue 熱の流行状況

WHO 西太平洋事務局の発表によれば、今年はフィリピンで約 1 万 8000 人、ベトナムで約 1 万人、マレーシアで 8000 人の Dengue 熱患者が報告されています (WHO Western Pacific Region HP 2012-5-5)。この患者数は例年並みの数になっています。一方、カンボジアは患者数が約 2000 人ですが、この数は昨年より 3 倍になります。また、タイ保健省の発表では、同国で 4 月までに 7815 人の Dengue 熱患者 (うち 9 人死亡) が確認されました (Pro MED 2012-5-15)。この数は昨年同期に比べて減少しています。患者の発生は南部地域で多い模様です。

東南アジア各国はこれから雨季を迎えるため、今後、Dengue 熱患者数が増加することが予想されます。

・中国、東南アジアで手足口病の患者が増加

今年になり中国や東南アジアで手足口病の患者が増加しています。WHO 西太平洋事務局によれば中国で約 9 万人、ベトナムで約 3 万人、シンガポールで約 1 万人の患者が乳幼児を中心に発生しており、これは昨年より 3 倍近い数になっています (WHO Western Pacific Region HP 2012-5-2)。ただし、軽症のケースがほとんどで、合併症をおこし重症化する事例は少ないとのこと (Pro MED 2012-5-19)。手足口病は口腔粘膜や手足に発疹をおこすウイルス感染症で、日本でも夏季に乳幼児を中心に流行が occurs。予後良好な疾患ですが、稀に脳炎や心筋炎などの合併症をきたし、重症化することがあります。飛沫感染や接触感染をおこすため、予防には手洗いを励行することが大切です。

・フィジーでのレプトスピラ症の流行

南太平洋のフィジーでは今年になりレプトスピラ症の患者が多発しており、3 月末までに患者数が 236 人になりました (厚生労働省検疫所 HP 2012-4-27)。これは大雨による洪水が原因と考えられています。レプトスピラ症はドブネズミが保菌動物で、その尿に病原体が排泄されます。ヒトはこの病原体で汚染された水に接触することで感染します。フィジーは日本からの観光客が訪れることも多い場所ですが、滞在中は汚水に触れないように注意する必要があります。

・ハイチでコレラの流行がつづく

カリブ海のハイチでは 2010 年 10 月以来、コレラの流行が発生しており、患者数は 14 万人以上に達しました (米国 CDC Traveler's Health 2012-4-25)。最近では患者数が減少傾向にありますが、これから雨季のシーズンを迎えるため、流行の再燃が危惧されています。ハイチには日本の報道機関や国際援助団体からの派遣者が滞在中ですが、滞在中は飲食物の摂取などに十分な注意が必要です。